

生物種内のちがいが 生態系の回復をみちびく！？

地すべり後の厳しい環境で生きる植物に着目して

浜中 修也

北海道大学 大学院環境科学院

生物圏科学専攻 生態遺伝学コース



未来社会のあるべきかたち

- ◆ 自然災害から速やかに生態系を回復させる！
- ◆ 種内のちがいを理解する
→ 種内のちがいは生態系の回復に貢献
- ◆ 種内のちがいが生まれる過程を明らかにする

地すべりによる生態系の劣化

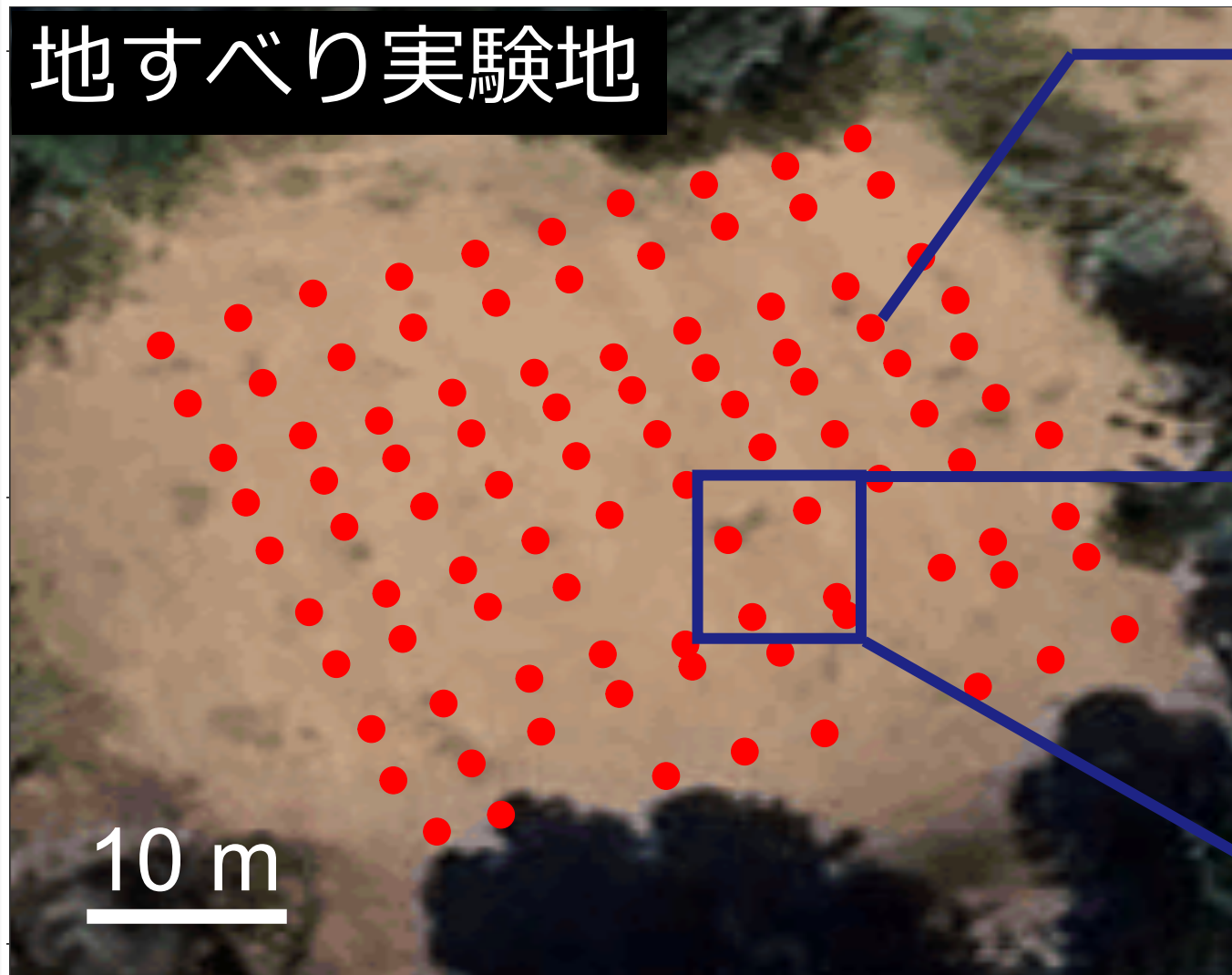
胆振東部地震被災地



- 気候変動にともなう豪雨がさらに地すべりを増やす
- ➡ 生態系の回復が社会的課題
- 厳しい環境によって多様な生物が生きられない
- ➡ この環境で生きられる生物が速やかな生態系の回復に貢献

厳しい環境に生まれる種内のちがい

地すべり実験地

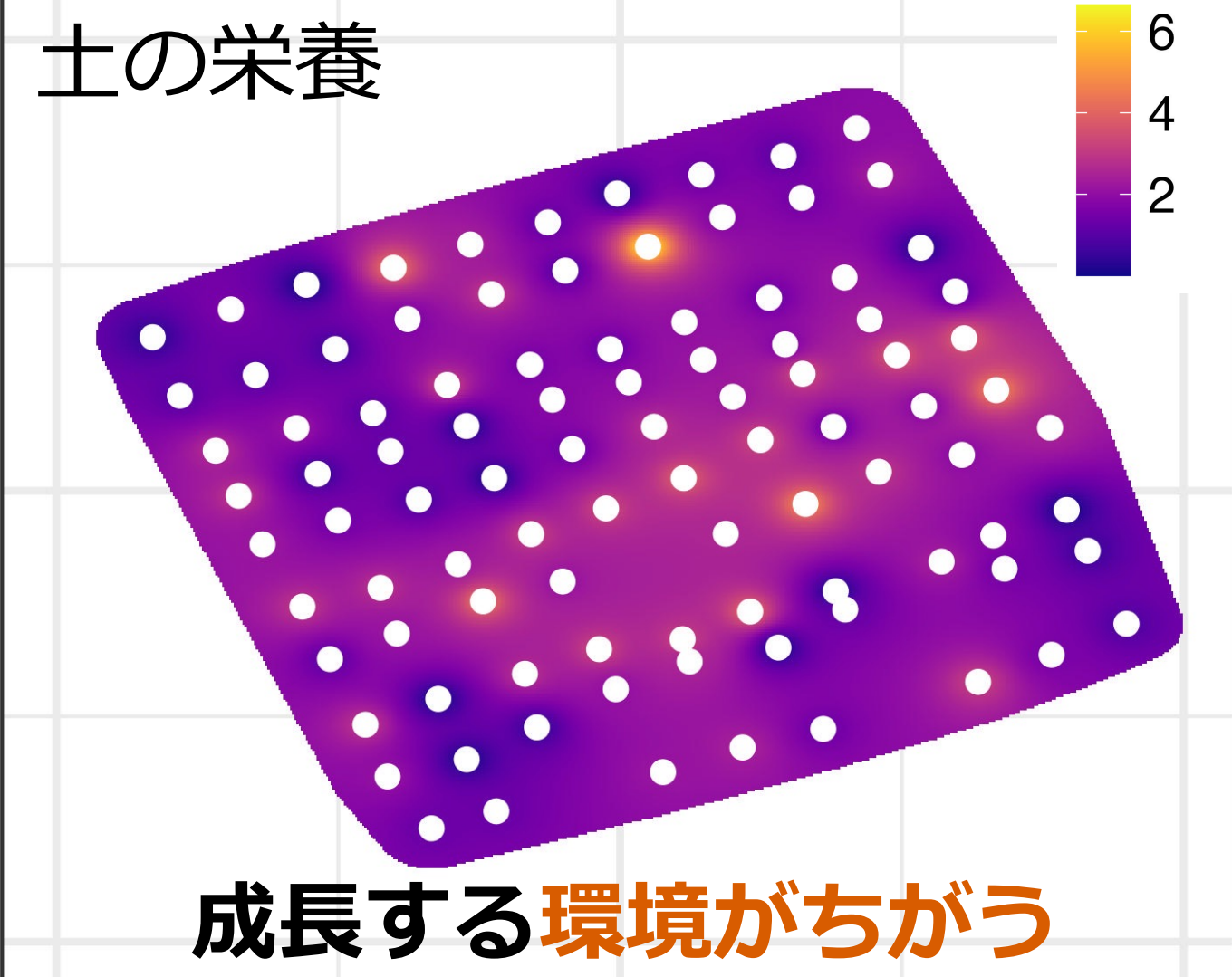


対象種：トドマツ
地すべり後に速やかに広がる

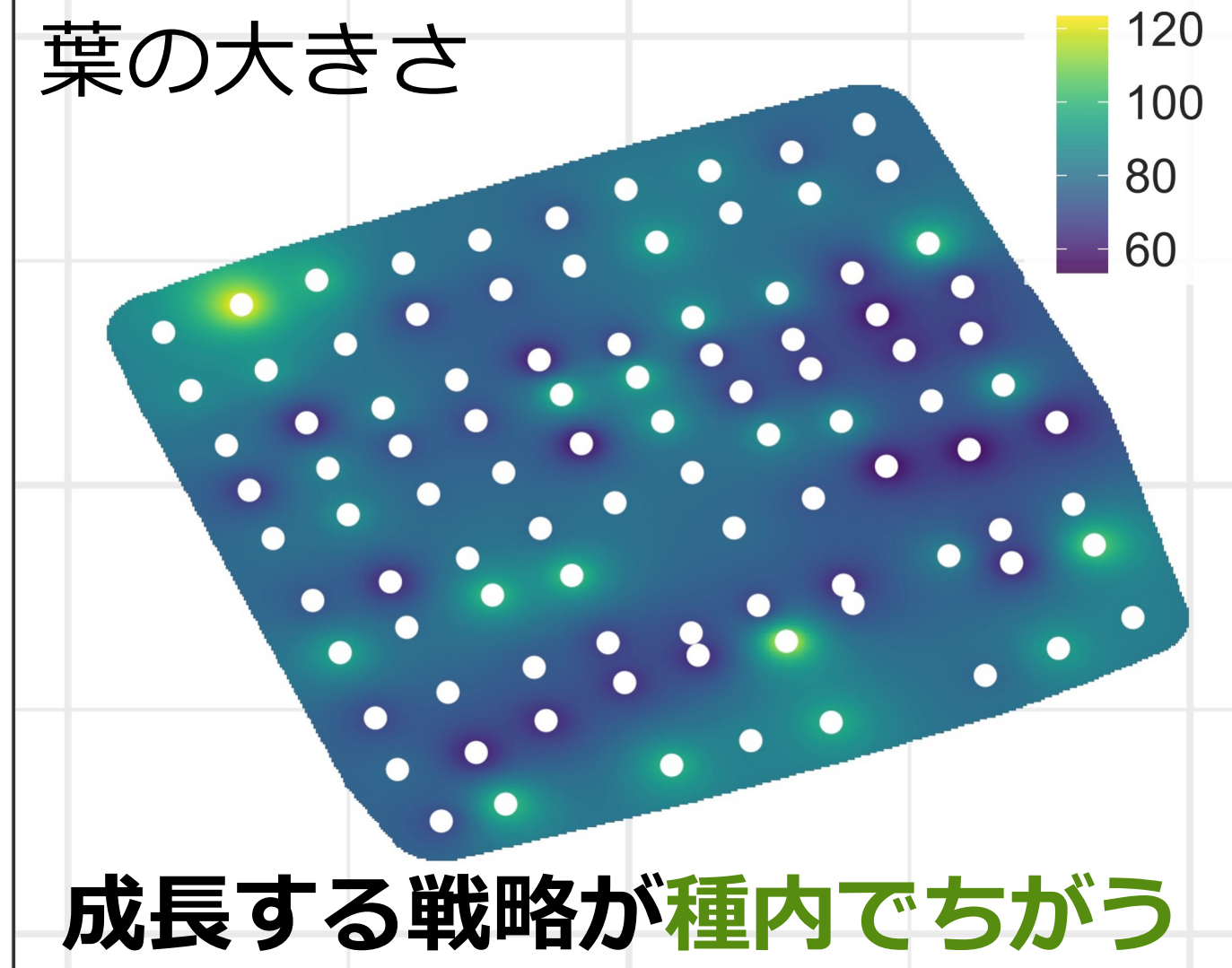


環境のちがいによって
種内のちがいが生まれる

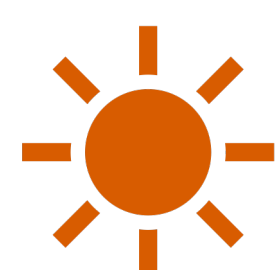
土の栄養



葉の大きさ



環境ごとに生態系の回復に適切な個体がちがう！！



光から栄養をかせぐ

土の栄養が低い



土から栄養をかせぐ

土の栄養が高い

未来社会に向けて

環境のちがいが種内のちがいを生み出す過程を
明らかにして、速やかに生態系を回復させる！